

## 中小企業・SDGsビジネス支援事業 環境レビュー結果

2022年6月24日時点

案件名：焼畑農業による森林減少抑制のための女竹精算流通システム構築ビジネス（SDGsビジネス）調査	
1. 事業実施地	ベトナム国ディエンビエン省
2. 対象分野	⑥農業
3. 事業の背景	ベトナムでは、人口増加に伴う農地転換、違法伐採が深刻な課題であったが、1995年代後半から植林森林再生保全政策によって改善傾向にある。しかし、ディエンビエン省では、短いサイクルで焼畑農業が実施され多くの天然林が減少・劣化している。その要因には、同省は同国で有数の貧困地帯であり、急峻な地形、狭小な農地面積、マーケットアクセスの困難さなどにより生計工場の手段が限られていることが挙げられる。
4. 提案製品・技術の概要	焼畑農業の代替として、連作が可能な女竹の適切な育苗・植栽技術および一次加工技術に加え、伐採から輸出に係る一連の経営技術のノウハウを移転する。具体的な項目については次の通り。植栽技術：優良苗竹の生産、適地選定、適正な植栽密度管理、栽培等。一次加工技術：伐採された竹加工の専用機械取り扱い方（洗浄機、裁断機、包装機等）。経営技術：伐採-集荷-加工-販売に至る効果的な流通システム構築のためのノウハウ。
5. 事業の目的	貧困率の高いディエンビエン省において、焼畑農業によるキャッサバ栽培の代替として、天然資源である女竹の適切な植栽技術を確立し、農業園芸用資材としての一次加工技術の移転を図ることで、森林減少の抑制と地域住民の生計向上の両立を目指す。
6. 事業の概要・期待される成果	試験植栽および女竹の資源に関する調査を通じて、ディエンビエン省に最適な採取、保水運搬、育苗・植栽方法を確立する。一次加工所を設置し、住民の組織化・技術指導を行い、女竹生産加工体制（住民約160名による一次加工技術習得）を確立する。現地パートナー（省農業農村開発局）と連携協定締結、

	<p>市場や採算性の確認、効率的な輸出体制を確保し、伐採—一次加工—運搬—製品加工—輸出に係る一連のバリューチェーンの実効性を検証する。</p>
7. 環境社会配慮	<p>①カテゴリ分類：B</p> <p>②カテゴリ分類の根拠：本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」(2010年4月公布)に掲げる影響を及ぼしやすいセクター・特性及び影響を受けやすい地域に該当せず、環境への望ましくない影響は重大でないと判断されるため。</p> <p>③環境許認可：SDGs ビジネスの調査の範囲で試験栽培等するものに関しては規模も極めて限られており、ベトナムの規定上、環境アセスメント報告書(EIAレポート)は必要とされてない。</p> <p>④汚染対策：大気汚染については、本事業では関連する活動が含まれないため該当しない。また、肥料・農薬を使用せずに活動を実施するため水質・土壌汚染は発生せず、生産する女竹の枝・葉・切り粉まで土壌改良剤として利用するため廃棄物も生じない。</p> <p>⑤自然環境面：事業対象地域から5kmの距離に保護林があり、本事業による影響は想定されないものの、植栽地の外周を掘削し隣接地へ地下茎が伸びるのを防ぐ対策をとるとともに住民へ地下茎が伸びることで生じるリスクを伝える。本事業では、一次加工技術研修を目的とした天然竹林の伐採と植栽用に竹苗の採取を行う。いずれも小規模で、竹林伐採は3年以上生育したものを、竹苗採取は1~2年の竹に限り、それぞれ異なる竹林で対象とするといった対策をとるため生態系への影響は小さい。伐採地に関しては現地政府から認可を受けた場所のみで実施する他、本事業では病害虫の発生は想定されていない。</p> <p>⑥社会環境面：本事業では政府から提供される土地で竹採取・保水運搬・育苗・植栽の試験調査を実施する。試験調査後は植栽を希望する地域住民が所有する未耕作地で自ら植栽をするものである。そのため、新たな用地取得や住民移転は生じない。</p> <p>⑦その他・モニタリング：本事業では、事業実施者</p>

	が事業実施期間中の汚染対策、自然環境、社会環境等のモニタリングを行う。
--	-------------------------------------